

## 平成29年教育委員会 第6回定例会

1 日 時 平成29年6月29日(木) 13時30分開会 15時02分開会

2 場 所 教育委員会庁舎3階 第1会議室

3 出席委員 教育長 林 秀 樹  
教育委員 笹 谷 純 代  
教育委員 小 澤 倭 文 夫  
教育委員 荒 田 純 司  
教育委員 常 見 幸 司

4 欠席委員 なし

5 出席職員 教育部長 飯 田 敬  
教育部次長 須 藤 慶 子  
教育部市立学校適正配置担当次長 石 崎 政 嗣  
学校教育支援室長 中 島 正 人  
学校教育支援室主幹(指導担当) 大 山 倫 生  
学校教育支援室主幹(学務担当) 成 田 和 陽  
学校教育支援室主幹(市立学校適正配置担当) 佐々木 雅 一  
教育総務課長 笹 山 貴 史  
施設管理課長 伊 藤 雅 浩  
生涯学習課長 海 谷 昌 弘  
図書館副館長 石 塚 則 子  
生涯スポーツ課生涯スポーツグループ主査 古 川 洋 一  
教育総務課総務係長 安 藤 英 明  
教育総務課総務係 会 沢 秀 紀

6 傍聴人 なし

7 議 題

議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案

議案第2号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案

議案第3号 小樽市いじめ防止対策審議会委員の委嘱案

議案第4号 学校職員の処分内申について

報告第1号 平成30年度使用小樽市小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書選定委員会における教科用図書調査研究の観点について

報告第2号 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）及び平成30年度公立特別支援学校配置計画案について

報告第3号 平成29年度小樽市学校医等功労者表彰について

報告第4号 小中学校の学校再編について

報告第5号 第29回おたる運河ロードレース大会について

その他  
・市議会第2回定例会について  
・寄附採納について

## 8 議 事

**林教育長** ただいまから、教育委員会第6回定例会を開会いたします。  
本日の会議の議事録署名委員に、小澤倭文夫委員を御指名させていただきます。  
はじめにお諮りいたします。議案第4号「学校職員の処分内申について」は会議規則第13条第1項第2号により非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

**各委員** （異議なし）

**林教育長** では、そのように進めさせていただきます。  
それでは、議案第1号の説明をお願いします。

### **議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案**

**図書館副館長** 議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案について、御説明いたします。  
市立小樽図書館協議会委員は2年の任期となっておりますが、来る7月25日に任期が満了となることから、新たに委員を任命するものです。市立小樽図書館条例第7条の規定に基づき、再任する方6名と、図書館の運営に関して深い関心があり、各方面において御活躍され、図書館の将来について活発な御意見を頂戴できる方として新たに3名御依頼し承諾を得ました。また、昨年の条例改正により、今回から公募委員1名を選考し、新任、再任合わせて10名の方を任命するものです。

お手元に配布しました資料の2枚目、市立小樽図書館協議会委員名簿を御覧ください。

新任の方は、一人目は家庭教育のお立場から、幸小学校PTA会長で、小樽市PTA連合会事務局次長の加藤歩様、二人目は他施設との連携から、小樽朗読友の会の前会長で、朗読ボランティアを20年されている軽部亮子様、三人目は報道関係者としてのお立場から、6月19日付けで北海道新聞社小樽支社長になられた中川充子様です。

公募委員につきましては、資料5枚目「市立小樽図書館協議会公募委員 選考結果について」を御覧ください。5月2日から31日まで、市立小樽図書館協議会委員を市民公募したところ、60代女性2名、70代女性1名、50代男性1名、60代男性1名、計5名の応募があり、市立小樽図書館協議会委員公募選考要領に基づき、6月2日に選考会を

開催し、渡辺真吾<sup>わたなべしんご</sup>氏を公募委員として選考いたしました。渡辺真吾氏は1957年東京生まれの60歳で、北海道大学文学部を卒業され、埼玉県内の博物館学芸員を皮切りに、博物館関係の仕事に従事されました。1993年から小樽に暮らしており、現在はフリーライターとして、明治から昭和戦前までの小樽新聞に目を通し、小樽の主な出来事をまとめた「小樽歴史年表」を発表され、博物館や文学館などの企画展などにも協力しておられます。主な著書に「小樽文学館叢書 新聞記事拾い読み」、「新聞記事万華鏡」などがあり、雑誌「月刊 小樽學」では小樽の総合史を担当され、執筆されています。

選考経過についてですが、御応募いただいた5名の応募論文「私が考えるこれからの小樽図書館」を、地域性＝「小樽図書館の運営について地域性を考慮しているか」、関心度＝「小樽図書館に対する知識及び幅広い興味・関心を持っているか」、公平性＝「市民全体の立場に立った考え方をしているか」、発展性＝「小樽図書館の将来の発展について期待が感じられるか」の4項目の選考基準により採点いたしました。応募論文の内容につきましては、話題本の速やかな購入や図書館のリクエストのあり方、児童書の充実、子供読書への取組、市民参加の企画など図書館への要望についての御意見があった中で、当館の今後の課題である郷土や地域資料への取組やデジタル化、各施設との連携についてなど、幅広い視野での渡辺真吾氏の論文が評価された結果、1位となり、公募委員に決定しました。

なお、任期につきましては、平成29年7月26日から平成31年7月25日までの2年間となります。

この10名の委員の任命について、御審議をお願いいたします。

林教育長 ただいまの説明につきまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。  
よろしいですか。

各委員 （異議なし）

林教育長 それでは、このとおり議案第1号を了承いたします。  
続きまして、議案第2号の説明をお願いします。

## **議案第2号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案**

学校教育支援室主幹（学務担当） 議案第2号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案について、御説明いたします。

今回の委嘱につきましては、6月30日で現委員の任期が満了となるため、各機関からの推薦に基づき新たに委嘱するもので、任期は7月1日から平成31年6月30日までの2年間となります。

なお、今回9名のうち、新任は2名で、学識経験者枠として、公益財団法人北海道青少年育成協会から推薦のありました、北海道青少年育成運動推進指導員 谷川修二<sup>たにかわしゅうじ</sup>氏、小樽市PTA連合会から推薦のありました、副会長 広瀬堅一<sup>ひろせけんいち</sup>氏です。

以上、御審議のほどよろしくをお願いいたします。

林教育長 ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ありますか。  
よろしいですか。

各委員 （異議なし）

林教育長 それでは、このとおり議案第2号を了承いたします。  
続きまして、議案第3号の説明をお願いします。

### **議案第3号 小樽市いじめ防止対策審議会委員の委嘱案**

学校教育支援室主幹（指導担当） 議案第3号 小樽市いじめ防止対策審議会委員の委嘱案について、御提案させていただきます。

本議案は、小樽市いじめ防止対策推進条例第13条に基づき、教育委員会の附属機関として設置する小樽市いじめ防止対策審議会の開催に当たり、5名の委員を委嘱するものがあります。

資料の2枚目を御覧ください。

本審議会の委員は、教育委員会の諮問に応じ、いじめ防止対策の推進に関する事項の審議及び重大事態に係る調査等を担うことから、いじめ防止等に関する知見を有する者として、学識経験者、弁護士、医師、臨床心理士、人権擁護委員から選出しており、全員、再任となっております。

なお、今年度も、重大事態等がない限り、定例会を来年2月に開催し、本市におけるいじめ防止に関する具体的な取組等について、委員の皆様から御意見を伺う予定となっております。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

林教育長 ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。  
よろしいですか。

各委員 （異議なし）

林教育長 それでは、このとおり議案第3号を了承いたします。  
続きまして報告に入ります。報告第1号の説明をお願いします。

### **報告第1号 平成30年度使用小樽市小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書選定委員会における教科用図書調査研究の観点について**

学校教育支援室主幹（指導担当） 報告第1号 平成30年度小樽市使用小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書選定委員会における教科用図書調査研究の観点について、御報告させ

ていただきます。

平成30年度使用小樽市小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書選定委員会が調査研究するにあたっては、平成30年度使用小樽市小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書選定委員会要領3により、北海道教育委員会が作成する「採択参考資料」を参考として行うこととなっていることから、下記のとおり調査研究の観点を定め、現在、調査研究を行っているところです。

まず、1枚目の「特別の教科 道徳」の教科用図書調査研究の観点については、小樽市教育委員会として「(4) 印刷・製本」の観点を追加しております。

次のページ、2枚目には、参考として、北海道教育委員会が作成した「採択参考資料」に示されている観点と、小樽市教育委員会として追加する観点を示しております。

次のページ、3枚目を御覧ください。特別支援教育の小委員会が、特別支援学級で使用する一般図書を調査研究する観点ですが、道教委の「採択参考資料」に示されている観点の中に、印刷、造本に関する観点が含まれておりますので、道教委の観点と全て同じ内容としました。

なお、教育委員の皆様には、お手元に「教科書編修趣意書」と道教委の「採択参考資料」をお配りしておりますので、御覧いただきますよう、お願いいたします。

以上です。

**林教育長** ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

**小澤委員** 1枚目のところの調査研究内容(2)④のところなのですが、「内容の分量が、内容の視点ごと等、全体としてどのようになっているか」、内容の視点というのは、どういう内容になっているのか、どこかに定められているのかをお伺いしたいと思います。

**学校教育支援室主幹(指導担当)** 先ほどの内容の視点ということについてですが、皆様のお手元のグレーの紙ファイルの「特別の教科 道徳」の採択参考資料を御覧ください。この中のページ数で言いますと、例えば道徳の3ページを御覧いただけますか。

**林教育長** 道徳と書いてある3ですね。

**学校教育支援室主幹(指導担当)** 1、2、3のあと、道徳1、道徳2と書いてありますけれども、道徳の3、このページで御説明させていただきます。この教科書会社の調査した内容についてですが、道徳の3の中ほどですね、内容の構成、配列、分量等の白丸の2つ目の部分についてですが、内容の分量については次のようになっていると記載がありまして、Aは主として自分自身に関すること、B、C、Dというのがあるのですが、これは道徳の内容項目というものでして、それにDは複数の内容項目が含まれている教材を表すと書いておりますので、これがここである視点になっておりまして、それぞれの視点ごとによどのような分量で配列がされているかという辺りで記載されていますので、この部分で調査研究をしてまいりたいというふうに考えております。

林教育長 一つの例ということですか。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。

林教育長 ほかのところも同じようにこういう形で、と。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。ほかについても、5ページですとか7ページですとか、同じようなところで記載があります。

小澤委員 そうしますと例えばこの道徳の3のところの事例で見て、その内容分量については次のようになっている。Aは、とあって、第1学年のところは38教材、総ページ数は、といっても、38教材になっているけれども、1年生19項目くらいですよ。20項目がないけれども、これは1教材で2つの項目があるとか、というふうになっているものの分量のバランスを中心に研究しなさいということですか。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。

小澤委員 わかりました。

林教育長 よろしいですか。ほかにありませんか。

基本的に北海道教育委員会が作成した採択参考資料に示されている観点をここに載せているということですね。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。

林教育長 あと、考え方が小樽独特で考えているというのが、印刷製本に係る部分くらいということですね。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。そこを加えております。

林教育長 それはやっぱり、これまで保護者とか教職員から、こういうものも配慮する必要があるという意見のもとで、こういうものを追加しているということではないのでしょうか。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。過去の調査研究の中で、保護者ですとか学識経験者の中で、例えばページのめくりやすさですとか、写真の鮮明さですとか、そういう辺りが非常に大事だという声もあったものですから、引き続きこういう観点も残しているということです。

林教育長 ほかにありませんでしょうか。

小澤委員 3枚目の一般図書の調査研究の観点、先日の臨時会の時にも御説明いただいたのですが、この一般図書の対象になっているものの実際の調査研究というのは、ごく限られたものしかできないのですよね。図書そのものを直接見て調査研究できるものはごく一部なのですよね、実際上は。

学校教育支援室主幹（指導担当） 現実的には、表の中の一部（図書）を実際に見て調査研究をしていくということを考えております。

小澤委員 最終的に、この一般図書の研究の観点に基づいて調査研究されて、それを教育委員会で、その調査内容に従ってどうする、ということを決めるのですよね。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。

小澤委員 決めるときに、そのかなりの（数の）リストの中から全てが一般図書として採択可能であるという趣旨のことを決定するのでしょうか。それとも、今までの教科書（採択）だとA、B、CがあるうちのAが妥当だと思います、と決めますよね。でも事実上それはできないように思うので、教育委員会として最終的な決定をするのがどういう内容なのかということを知りたいです。

学校教育支援室主幹（指導担当） 小委員会では、リストの中の一部の一般図書の調査研究をまずいたしますので、その結果、いくつかの図書の調査研究した結果を教育委員会で御報告をいたしますので、それを受けてこのリストの中から学校が適切に使えるようにするというような内容で、採択ができればいいのかなと考えております。

林教育長 要するに小澤委員が質問した趣旨は、全体に網かかって、採択するとなったときに、一部だけしか調査していないのに、全部に網がかかってしまうのか。それをどうやって教育委員会で決めていけばいいのかということだと思うのですが。考え方の整理として、どういうふうに整理するかということだと思うのだけど。

小澤委員 私の受止めとして、追加で質問させていただくと、かなりの冊数ですよね。

学校教育支援室主幹（指導担当） 一般図書のほうですね。

小澤委員 ええ。これの全てが、各学校が採用可能なものとして了承します、という内容になるのですよね。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい、そのように考えております。

**小澤委員** その点はまず一つわかりました。学校はそうすると、この一般図書を使いたいというときに、このリストにないものは使えないと。

**学校教育支援室主幹（指導担当）** 道徳の時間に限っては、この中に掲載されているものの中から学校が適切なものを選べるようにするというふうに考えております。

**小澤委員** いや、一般図書のほうは、これは道徳だけでないのですよね。全ての教科なのですよ。道徳については了解したのですけれども、この30年度使用の特別支援学級を除く小中学校利用図書というのは、道徳じゃなくて全教科なのですよ。全部の特別支援学級の指導内容にかかわる書籍なのですよ。

**学校教育支援室主幹（指導担当）** その部分につきましては、今後具体的に検討させていただきたいと思いますので、この後の御報告をさせていただきたいと思いますので、お時間をいただければと思います。

**小澤委員** そうすると、そこのところは別として、このリストに盛られていないものも、学校で使いたいという事例が今まであったと思うのですけれども、それは教育委員会で検討して、それが使うことが妥当だとされることもある、という理解でいいですか。

**学校教育支援室主幹（指導担当）** 調査研究していないものについても、ということですか。

**小澤委員** このリストにないもので使いたいという申出があったときに、それについてはこのリストには入っていませんから、それは学校で教材として使うことはできません、となるのか、いやそこは教育委員会で検討して、これについても準じた内容として妥当だということと使えるようになるのか、そこのところはいかがでしょうか。

**学校教育支援室主幹（指導担当）** ちょっと、その部分は今後整理して御報告させていただきたいと思います。

**小澤委員** わかりました。

**学校教育支援室長** この度の、一般図書の小委員会を設置した理由という部分からお話しさせていただきますと、この度、道教委のほうから（通知があり）、「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択にあたって、学校教育法附則第9条の規定による一般図書を教科用図書として採択する必要がある場合は、単独の小委員会を置くことということになっておりましたことから、この度は「特別の教科 道徳」においてこの一般図書を使用する場合の、使用していかどうか、というための小委員会の調査ということになります。

小澤委員 それであればわかりました。

学校教育支援室長 なので、この一般図書の中から例えば道徳で内容項目に沿った適切な一般図書を、この一般図書の中から使ってよいかどうかという採択を教育委員さんをお願いするというこのための小委員会が調査をする、と。でも全ての調査はできませんので、その中から、一般図書から図書をピックアップしましてその中の調査研究の報告をもとに、教育委員会で、全体の道教委が指定したものを使ってよいかどうかというこの採択をいただきたいというふうに考えているところです。

小澤委員 それであれば、私の受止めが正確でなかったので、もう1回確認しますと、「特別の教科 道徳」の教科書の採択にかかわって、通常学級用のものと特別支援学級用のものを別の小委員会を設けて選定する、調査研究する。

学校教育支援室長 そのとおりです。

小澤委員 ということは特別支援学級にも教育委員会で採択した教科書が支給されて、それ以外に使うものということによいのですか。

学校教育支援室長 はい。特別支援学級は3種類使うことができます。1種類目はこの度採択される道徳の教科書、それをまたその学年ではなく下学年の教科書、要するに5年生の子供が2年生の道徳のこの度採択された教科書を使うことができます。それから、文部科学省が指定している図書があります。これはよく言う星付きの図書。もう1つはこの一般図書、この3種類を使うことができます。その3種類の中でこの道徳で使用できるものとして、この道教委がある程度限定したリストにあります中のものから使ってもよいかどうかの採択を今回いただくということになっています。わかりづらかったでしょうか。

小澤委員 いえ、今御説明いただいてよくわかりました。

学校教育支援室長 この度あくまでも「特別の教科 道徳」に関する採択と、その調査研究ということで押さえていただきたいと思います。

林教育長 よろしいでしょうか。

小澤委員 もうひとつ。これは今でなくてよろしいですけれども、この一般図書のほうのリストというのは、どういう過程で選定されるのか。それが何か選定基準のようなものがあって、確か毎年ですよ、毎年それが提示されるということであれば、その選定はどこでどういうふうにするものかということ、後でもし情報がありましたら教えていただければと思います。

林教育長 特段、道教委のほうからそういったような話というのは受けていないですか。

学校教育支援室主幹（指導担当） 特に何か理由とか基準というのは、調べてみないとわかりません。

林教育長 調べるのではなくて、情報はこれに付随して来っていない？来ている？  
こういう基準で、こういうを選びましたとかっていうのは、来ているのか、来ていないのか。

学校教育支援室長 目にはしていないですね。どういう基準かちょっと研究させていただければと思います。

林教育長 よろしいでしょうか。ほかにありませんか。

各委員 （なし）

林教育長 それでは、報告第1号を終了いたします。  
続きまして、報告第2号の説明をお願いします。

## 報告第2号 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）及び平成30年度公立特別支援学校配置計画案について

学校教育支援室主幹（学務担当） 報告第2号 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）及び平成30年度公立特別支援学校配置計画案について、報告いたします。

これらは6月6日に道教委が示したものですが、その中で本市にかかわる部分について御説明いたします。

1枚目の資料を御覧ください。「公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）」の、平成32年度の高校配置計画案についてですが、この度、小樽桜陽高校の1学級減が示されました。

次に本編の15ページを御覧ください。ここでは後志学区の計画案について示されておりますが、表の上段には後志学区内と小樽市内の中学校卒業生数の推移が示されております。市内においては平成31年度に前年比で55名が減少することに加え、平成32年度はさらに上回る前年比104名の大幅減となっており、下段には平成29年度の各公立高校の欠員等の状況や平成30年度から32年度までの学級数の増減についての計画案が示されております。

最初の資料にお戻りください。平成30年度から36年度までの中卒者数の増減についてですが、後志学区内では330人、市内では190人の減少が見込まれ、特に平成33年度から36年度の4年間に後志学区内では54人、市内でも20人の減少が見込まれるため、後志学区においては「4年間で0～1学級相当の調整が必要」などの見解が示され

たところであります。

なお「平成30年度公立特別支援学校配置計画案」につきましては、本市に関する部分は示されておりません。

これらの案は、7月に開催される地域別検討協議会で出た意見を踏まえ、9月に道教委で正式に決定する予定です。

報告は以上です。

**林教育長** ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

残念ながら小樽桜陽高校が1学級減ということで、平成32年度ですから3年後に5学級になるということになります。それまでの間も結構中学校卒業予定者が減りますので、その間に例えば欠員が1学級以上出るとか、そういうことになれば、その段階で学級減ということも、結果としてそういうふうになる可能性も出てきますので、これだけの生徒数が減るといふ数字は避けられないので、そういうことも視野に入れなければならないのと、33年から36年の間にも、ここに小樽市内、それから小樽市周辺町、どこを指すかはわかりませんが、ここにおいて定員調整を検討していく必要があるというふうに書かれていますので、この段階でも出てくる可能性があるということですね。

それから実際に定員がどういふふうになるのかということと直結するのが中学校卒業者をどういふふうに推計していくかということなのですが、当然今推計している中ではやっぱり小樽市だけではなくて、余市だとか仁木だとかの子供たちの数がどういふふうになるのかということが大きく影響する部分もありますし、それから社会減になるのかと思うのですが、例えば転校して市外に転出をするような生徒数はこの後どういふふうになるかということによってちょっと動きが出てくるかなと。かなり先のことを検討している中で、そこら辺の動きも出てくるのかなというふうに思っています。これから注視をいっていかなければならないかなと思っています。

御意見・御質問等ありませんか。

**小澤委員** 直接今のところでない内容でもいいですか。

**林教育長** はい結構です。

**小澤委員** 7ページなのですが、単位制の導入のところの後志新設校のところなのですが、以前に、教育課程の内容ですとか、それから単位制の内容ですとか、そういうものが早く受験生並びに中学校のほうに提示いただけるように、というお願いをしていたと思うのですが、後ろの市議会の報告（その他「市議会第2回定例会について」の資料）を見ましたら6月24日の進路説明会で少しお話がある予定とあったのですが、私そこ（6月24日）に出られなかったものですから、それらの点について何か御説明があったのでしょうか。

**学校教育支援室主幹（学務担当）** 進路説明会、私も出席させていただいたのですが、まだ

具体的に細かい課程というか教科については、正式に決まっていけないということで、もう少し待っていてほしいということで説明がありました。私どもも、それから教育委員さんのほうからも、以前から子供たちのためには早く情報を出してもらえないだろうかというお話がありましたので、道教委のほうについても意見交換とかする機会を、こちらのほうからも一所懸命、積極的に、早めに出してほしいということで、働きかけていく要望はしているところではあります。残念ながらこの前の説明会の中では具体的などころまでは触れられてなかったということでもあります。

**林教育長** 学科ごとの、こういうことを学びますとか、こういうふうにして履修していきますとか、そういうようなお話はありました。それから目指す学校像だとか、それから実際に小樽から要請していったいろんな事項について取り入れていきますよってという話もありました。ただ具体的な教科の中で何の教科でどういうことを学んでというところまでは、今最終段階で道教委と協議している段階ということで、具体的なお話は先ほど成田主幹が言ったように出てきませんでした。それで実際に道教委のほうでスケジュール案としては7月までに決めていくこととしているので、たぶん今最終の詰めを道教委とやっていることだと思います。ただゴーサインが出てないので本当の細かいところまでは話ができない状況かなというふうに理解をしておりました。7月に実は学校で、学校説明会、オープンキャンパスって言うんですか、それを開催するのでぜひ皆さん来てくださってという御案内が当日ありましたので、多分そこでかなり詳しい部分は説明されてくるのかなと。で併せて生徒さんも来てください、それから進路指導を担当する中学校の先生方にも是非来ていただきたいという御案内は当日24日の日にありました。

**学校教育支援室主幹（学務担当）** （学校説明会が）7月31日。

**林教育長** 教育委員会のほうにも後日道教委と話が詰まりましたら御説明にあがりますと言っておりましたので、そこら辺情報入り次第皆さんにもお知らせしたいというふうに思います。ほかにありませんでしょうか。よろしいですか。

**各委員** （なし）

**林教育長** それでは、報告第2号を終了いたします。  
続きまして、報告第3号の説明をお願いします。

### **報告第3号 小樽市学校医等功労者表彰について**

**学校教育支援室主幹（学務担当）** 報告第3号 平成29年度小樽市学校医等功労者表彰について、報告いたします。

この表彰は、小樽市学校医等功労者表彰要綱に基づき、学校医、学校歯科医、学校薬剤師として20年以上従事されたときに、長年の功労に報いるために感謝状を贈呈するもの

であります。

今回、表彰を受けられるのは、記載のとおり、学校歯科医 3 名、学校薬剤師 1 名の計 4 名です。

なお、感謝状贈呈式は、昨年度までは教育委員会庁舎にて平日行っておりましたが、お仕事中にお越しいただくなど御不便をおかけしておりましたので、今後は各会が開催する総会などの場において表彰を行う予定です。

報告は以上です。

**林教育長** ただいまの報告につきまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

学校医師会のほうからは特段（推薦が）なかった、ということでもいいですね。歯科医師会と薬剤師会からは推薦があった。

**学校教育支援室主幹（学務担当）** そうですね、今回 3 会には照会いたしましたけれども、その 2 つのところから出てきたということです。

**林教育長** ほかにありませんか。よろしいですか。

**各委員** （なし）

**林教育長** それでは、報告第 3 号を終了いたします。

それでは、報告第 4 号の説明をお願いします。

#### **報告第 4 号 小中学校の学校再編について**

**学校教育支援室主幹（市立学校適正配置担当）** 報告第 4 号 小中学校の学校再編について御説明いたします。報告第 4 号を御覧ください。

「統合協議会関係」について、はじめに花園小学校・入船小学校統合協議会関係ですが、6 月 5 日の第 2 回学校支援部会では、新たな通学路の現地確認の状況を踏まえ、注意箇所の対応について検討し、今後、除排雪の要望や通学安全マップの作成、見守り活動について検討していくこととしております。

次に、緑小学校・最上小学校・入船小学校統合協議会関係ですが、5 月 30 日の第 2 回学校支援部会では、新たな通学路の現地確認の状況を踏まえ、注意箇所の対応について検討し、今後、除排雪の要望や通学安全マップの作成、見守り活動について検討していくこととしております。また、PTA の組織について、新たな組織づくりを行う方向で、新たな規約等のたたき台をもとに各 PTA で検討し、意見集約を進めていく旨報告がありました。

次に、入船小学校・奥沢小学校・天神小学校統合協議会関係ですが、6 月 1 日の第 2 回学校支援部会では、新たな通学路の現地確認の状況を踏まえ、注意箇所の対応について検討し、今後、除排雪の要望や通学安全マップの作成、見守り活動について検討していくこ

ととしております。

次に「今後の地区別懇談会の開催予定」ですが、今年度、豊倉小学校の学校規模がこれまでと大きく変わってきたことから、現状を説明するため、懇談会を7月6日に開催したいと考えており、現在その準備を進めているところであります。

報告は以上です。

**林教育長** ただいまの報告に関しまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

**笹谷委員** 花園・入船のほうの学校支援部会ですけれども、通学路の安全についてということなのですが、地域の方の出席はなかったということですね。

**学校教育支援室主幹（市立学校適正配置担当）** この日はちょっと（出席が）なかったです。

**笹谷委員** たまたまちょっと御都合が悪かったということですね。

**学校教育支援室主幹（市立学校適正配置担当）** はい。ただ、この前段で行った現地確認の時には地域の方も出てきていただいて、いろいろ御意見をいただいていますので、それを踏まえて、学校支援部会で検討させていただいています。

**笹谷委員** やはり内容が内容ですので、地域の方の御協力が非常に大きな部分かと思しますので、たまたま御都合が合わなかったのでしょうかけれども、なるべく地域の方の都合のつく日にちだとか、工夫していただいて、1回でも地域の方が1人もいないというのもどうかと思いますので、その辺り工夫していただければと思います。

**学校教育支援室主幹（市立学校適正配置担当）** わかりました。

**林教育長** ほかに御意見・御質問等ありますか。よろしいでしょうか。

**各委員** （なし）

**林教育長** それでは、報告第4号を終了いたします。

続きまして、報告第5号の説明をお願いします。今日は丸田課長が所用により欠席しておりますので、担当の古川主査から説明をしてもらいます。よろしくをお願いします。

#### **報告第5号 第29回おたる運河ロードレース大会について**

**生涯スポーツ課生涯スポーツグループ主査** 報告第5号 第29回おたる運河ロードレース大会について報告します。

去る6月18日に第29回おたる運河ロードレース大会が開催されました。当日は、教

育委員の皆様には、朝早くから御臨席を賜りまして、誠にありがとうございました。

今年の大会につきまして、申込状況、当日の受付者数、完走者数の状況を種目別に前回大会と比較しております。

申込数は3,283名と前年比336名の増加となっております。今年は、市内の小中学校の協力を得て、各学校において申込みができるようにしたことから、小樽市内の児童生徒の申込者数が昨年の64名から235名と大きく増加しております。

当日の全体の受付者数は3,045名となっており、申込比で92.8%、完走者数は2,901名で同88.4%となっております。

次に、当日の天候の状況を記載しておりますので御覧ください。当日は天候に恵まれ終日晴れとなっております。気温としては、ハーフのスタートとなった9時過ぎに20℃を超え、日差しの強い一日となり、昨年に比べますとランナーにとっては暑かったものと思います。

次に、地区別参加申込状況につきまして記載しておりますので御覧ください。小樽市民の参加は昨年に比べ172名増加し877名で26.7%となっております。札幌市からの参加につきましては、昨年に比べ144名増加し1,714名で52.2%となっております。小樽、札幌以外の道内からの参加は518名で15.8%、道外からの参加は27都府県から174名で5.3%となっております。

また、救護からの報告によりますと、当日2名のランナーが救急車で搬送されておりますが、いずれも脱水症とのことでした。そのうち1名の方は症状が重く、6月26日現在入院中でありましたが、快方に向かっているとのこと。ほかには大きな事故等については報告されておられません。

今回、開会式前に小樽商科大学応援団による、ランナーヘールを送るデモンストレーションを行ったほか、海上保安庁の巡視船「えさん」の艦上に設置されている電光掲示板（停船命令等表示装置）に「めざせ完走！！ 自己ベスト！！ 楽しく頑張れ」と表示していただくなど、レースの盛上げに御協力をいただいております。また、会場での出店として昨年に引き続き、小樽のPRを兼ねて、小樽あんかけ焼そば親衛隊さん、小樽ビールさんなどに来店いただき盛況であったと伺っております。

現在、今大会の反省点や改善した方がよい点等につきまして、警備に当たった方やボランティアの方などにお聞きしているところであります。

来年は第30回の節目の開催となりますので、今後、節目の大会にふさわしい企画などについて、実行委員会の合同部会において検討していくこととしております。

報告は以上です。

**林教育長** ただいまの報告に関しまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

**荒田委員** 2名救急車で搬送されたということですがけれども、申込みはどの（区分か）。ハーフマラソンとか10キロとか。

**生涯スポーツ課生涯スポーツグループ主査** 2名のうち1名、重篤な方は把握しているのですが、

その方は男子のハーフの方で年齢が49歳の小樽市在住の方です。もう1人の方は把握しておりません。

林教育長 よろしいですか。ほかにありませんか。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 今回御協力いただきましてありがとうございました。  
これをもって、報告第5号を終了いたします。  
それではその他の報告に入ります。まず市議会第2回定例会についてお願いします。

### **その他 市議会第2回定例会について**

教育部長 それでは、小樽市議会第2回定例会につきまして御報告申し上げます。表紙をめくっていただき、裏面の目次を御覧ください。

第2回定例会につきましては、6月6日に本会議を開催し市長等から提案説明があり、その後、12日から15日まで代表質問及び一般質問が行われました。また、16日から20日にかけて予算特別委員会、21日に総務常任委員会、22日に学校適正配置等調査特別委員会が開催されまして、会期を1日延長して27日に終了しております。

本日は、各委員会の質疑概要ができておりませんので、代表質問及び一般質問の概要についてのみ報告させていただきます。

まず1ページを御覧ください。

代表質問につきましては、3名の議員から質問がありました。

自民党の中村吉宏議員からは、「教育関連について」ということで、「美育、芸術教育について」、「学校図書館における司書の配置と市立図書館との連携について」質問がありました。

次に、3ページになりますが、共産党酒井隆裕議員からは、「教育行政について」ということで、「小中学校再編計画について」、5ページ、「工業高校・商業高校の統合新設校について」、6ページ、「学校図書について」の3点について質問がありました。

次に、9ページになりますが、民進党佐々木議員からは、「日本遺産認定を目指して」ということで、「日本遺産認定の戦略について」として、「歴史文化構想の策定状況等について」質問がありました。

以上、代表質問では6項目の質問がありました。

次に、一般質問につきましては、2名の議員から質問がありました。

まず10ページ、自民党の酒井隆行議員からは「グラウンドの整備について」、また共産党高野議員からは「放課後児童クラブについて」と11ページの「通学バスについて」質問があり、合計で3項目となっています。

それぞれ答弁の概要を掲載しておりますので、のちほど御覧いただきたいと思います。

14ページを御覧ください。各委員会の質問項目につきまして報告いたします。

予算特別委員会では、4名の委員から「不登校児童生徒支援事業費について」、「アスベストについて（朝里小・中学校関連）」、「公共施設の優先順位について（市営プール関連）」、「グラウンド整備について」、「小樽の高校生・大学生の留学支援について」の5項目について質問がありました。

総務常任委員会では、教育委員会から「公立高等学校配置計画（平成30年度～32年度）について」の報告を行ったほか、2名の委員から「中学校の武道について」、「教育勅語について」、「学芸員の役割について」の3項目について質問がありました。

最後、15ページになりますが、学校適正配置等調査特別委員会では、教育委員会から「学校再編に向けた取組状況について」、「統合についてのアンケート調査結果について」の報告を行った後、質疑が行われ、関連する主な質問内容といたしましては、「統合についてのアンケート結果」内容に関するもののほか、豊倉小学校の地域説明会や児童数の減少等について、通学バス助成についてなどの質問をいただいております。

なお、各委員会の質問の詳細につきましては、現在取りまとめ中ですので、来月の定例会の際に報告させていただきたいと考えております。

報告は以上です。

林教育長 御意見・御質問等ありますか。よろしいですか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは本件を終了いたします。  
続いて、寄付採納がありましたので、報告をお願いします。

#### **その他 寄附採納について**

教育総務課長 寄付が2件ありましたので、御報告いたします。

1件目は、北海道コカ・コーラボトリング株式会社様から市立図書館に対し、図書25冊、3万8,850円相当を御寄贈いただいたものです。図書館の正面玄関前に設置しています同社の清涼飲料水の自動販売機の平成28年度の売上から、1本につきまして10円をかけた金額分の図書を御寄付いただいたものです。この御寄附につきましては、平成23年度から始まり、今回で7回目となります。

2件目は、高坂啓子様たかさかけいこから小樽市奨学資金基金に10万円御寄附いただいたものです。本年3月に続き、今回で15回目、総額245万円を頂いております。

報告は以上です。

林教育長 本件に関しまして、御質問等ありましたらお願いします。

各委員 (なし)

林教育長     それでは報告を終了します。

          ただいまから非公開の審議に入ります。傍聴の方、報道関係者の方、関係者以外の皆様は御退席をお願いいたします。

          <非公開の審議開始>

**議案第4号 学校職員の処分内申について**

          教育総務課長から、学校職員の処分内申について説明し、林教育長、笹谷委員、小澤委員、荒田委員、常見委員から質問が、林教育長、笹谷委員、小澤委員、荒田委員、常見委員から意見があったほか、全委員一致により決定した。

          <非公開の審議終了>

林教育長     以上をもちまして、教育委員会第6回定例会を終了いたします。